

厚生科学審議会科学技術部会資料

医療機器産業活性化のための施策について

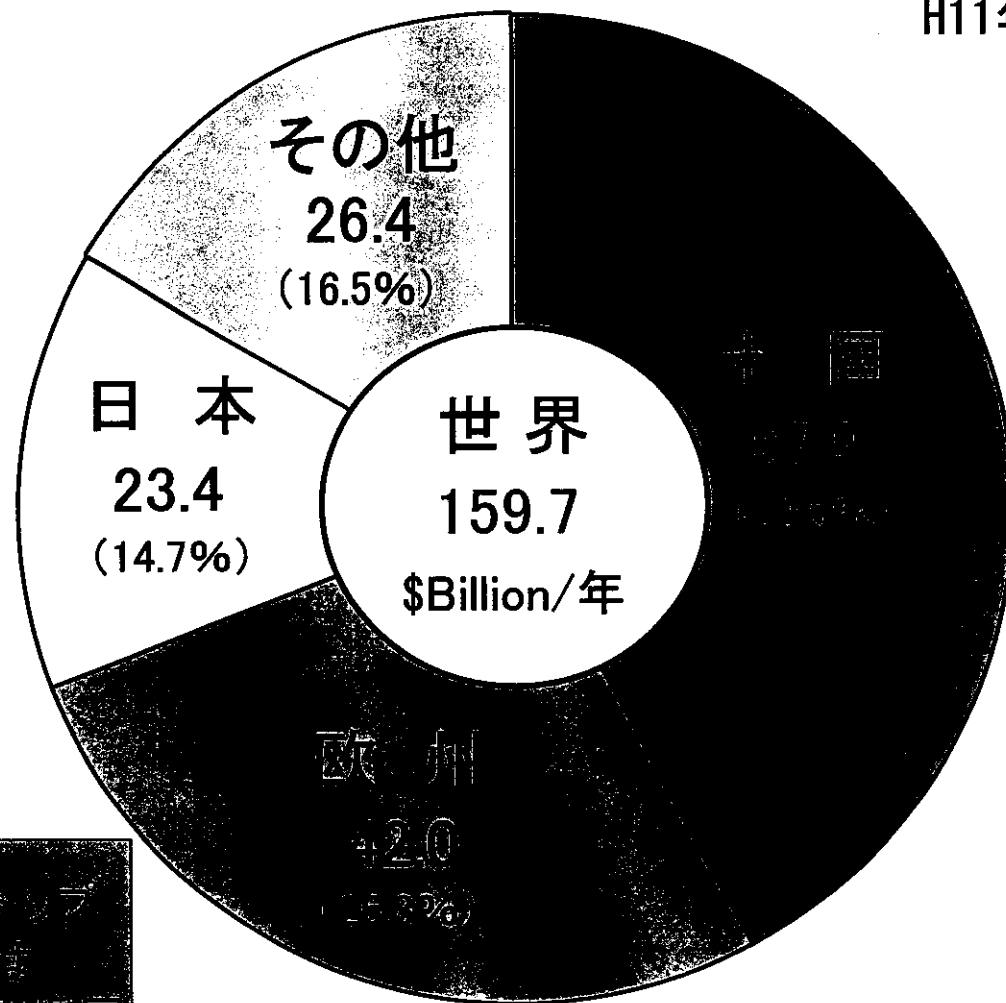
平成14年5月13日

日本医療機器関係団体協議会会長

(株)日立メディコ代表取締役会長

宅間 豊

H11年度(1999)

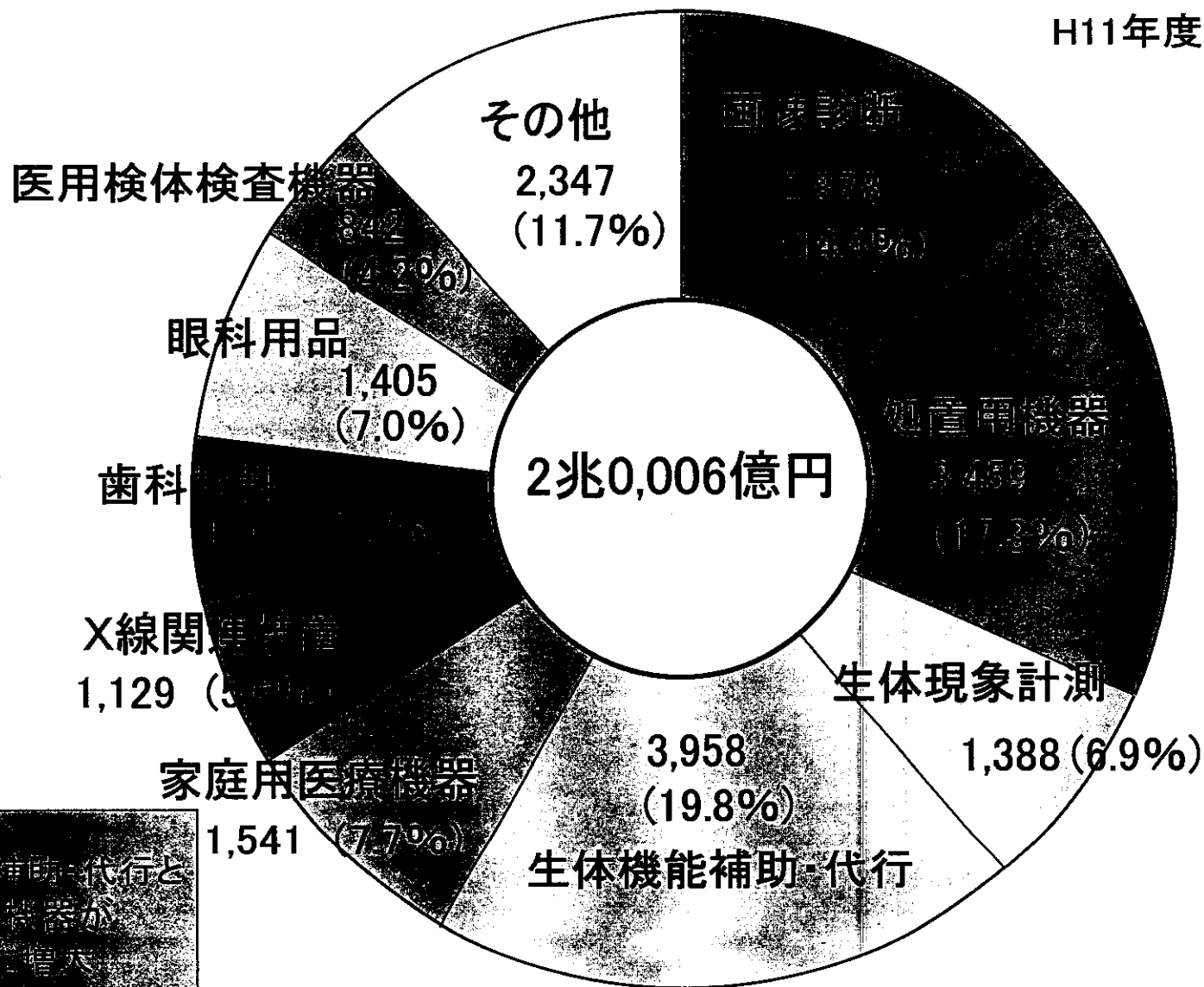


① 米国市場が断然トップ
② 「その他」の市場は
途上国と新興国

世界医療用具市場

出典:HIMA

H11年度 (1999)

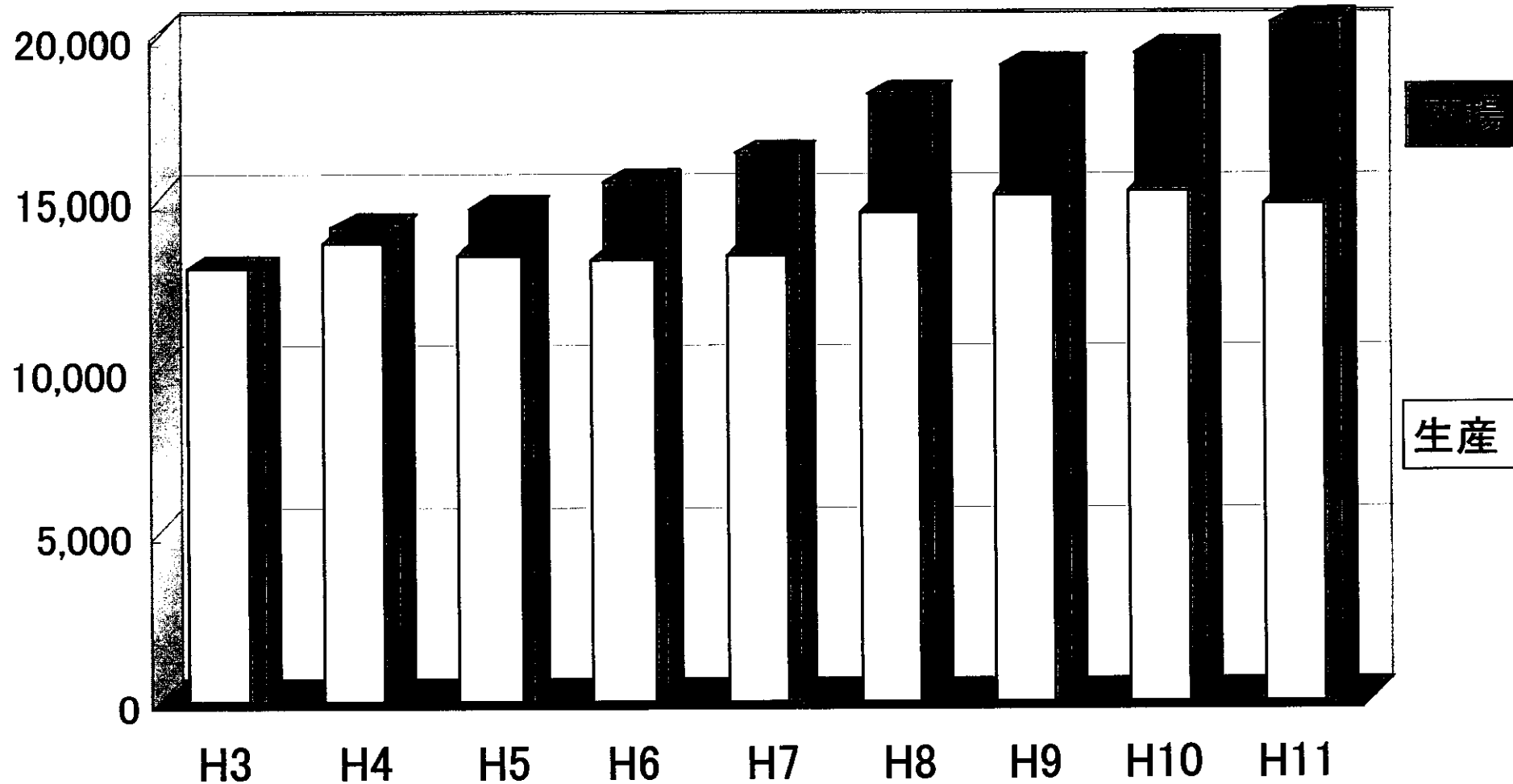


生体機能補助・代行と
処置用機器が
急速に増大

日本の医療用具市場

出典: 厚生労働省

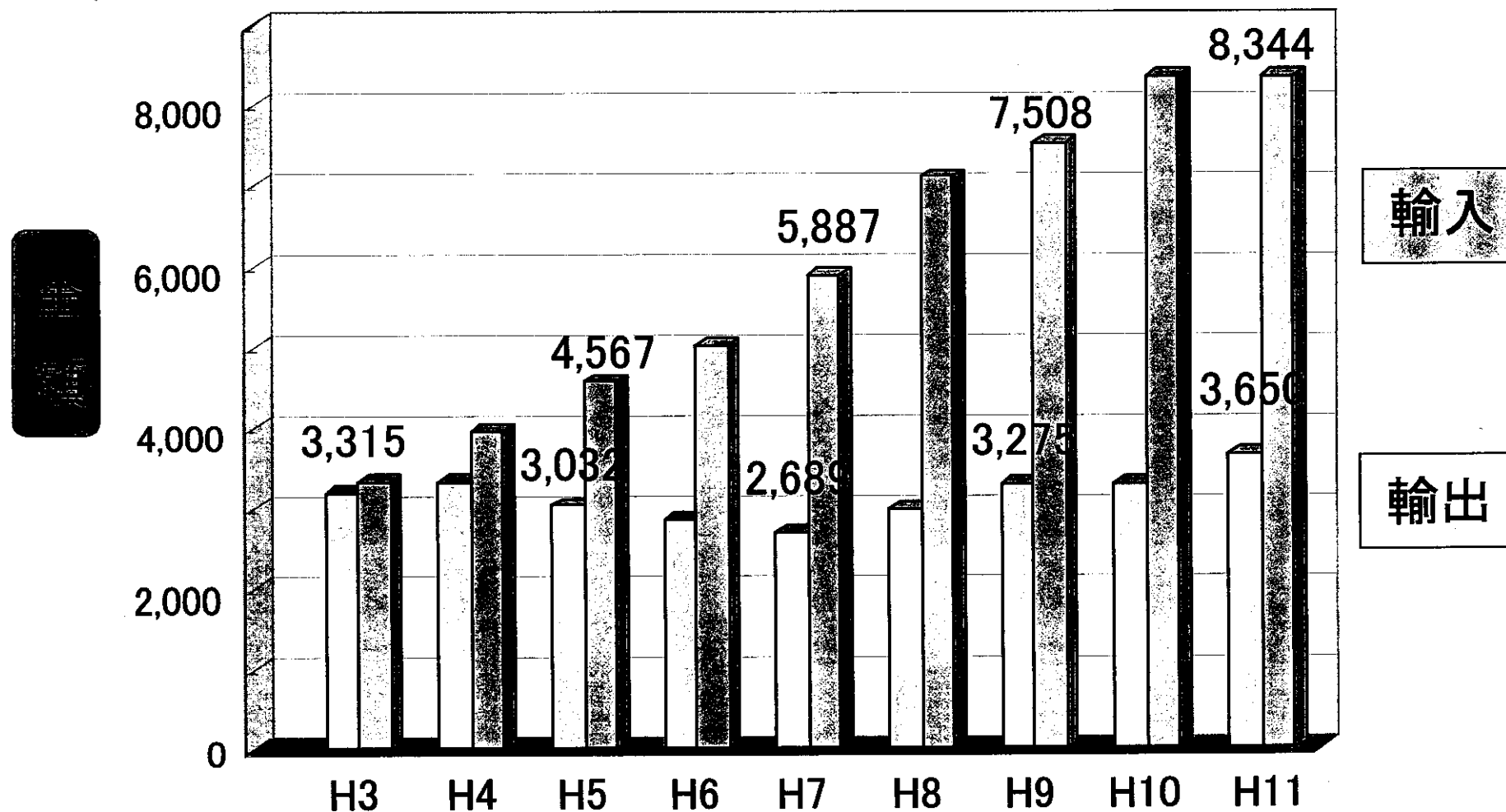
(億円/年)



日本の医療用具市場と生産高

出典:厚生労働省

(億円/年)

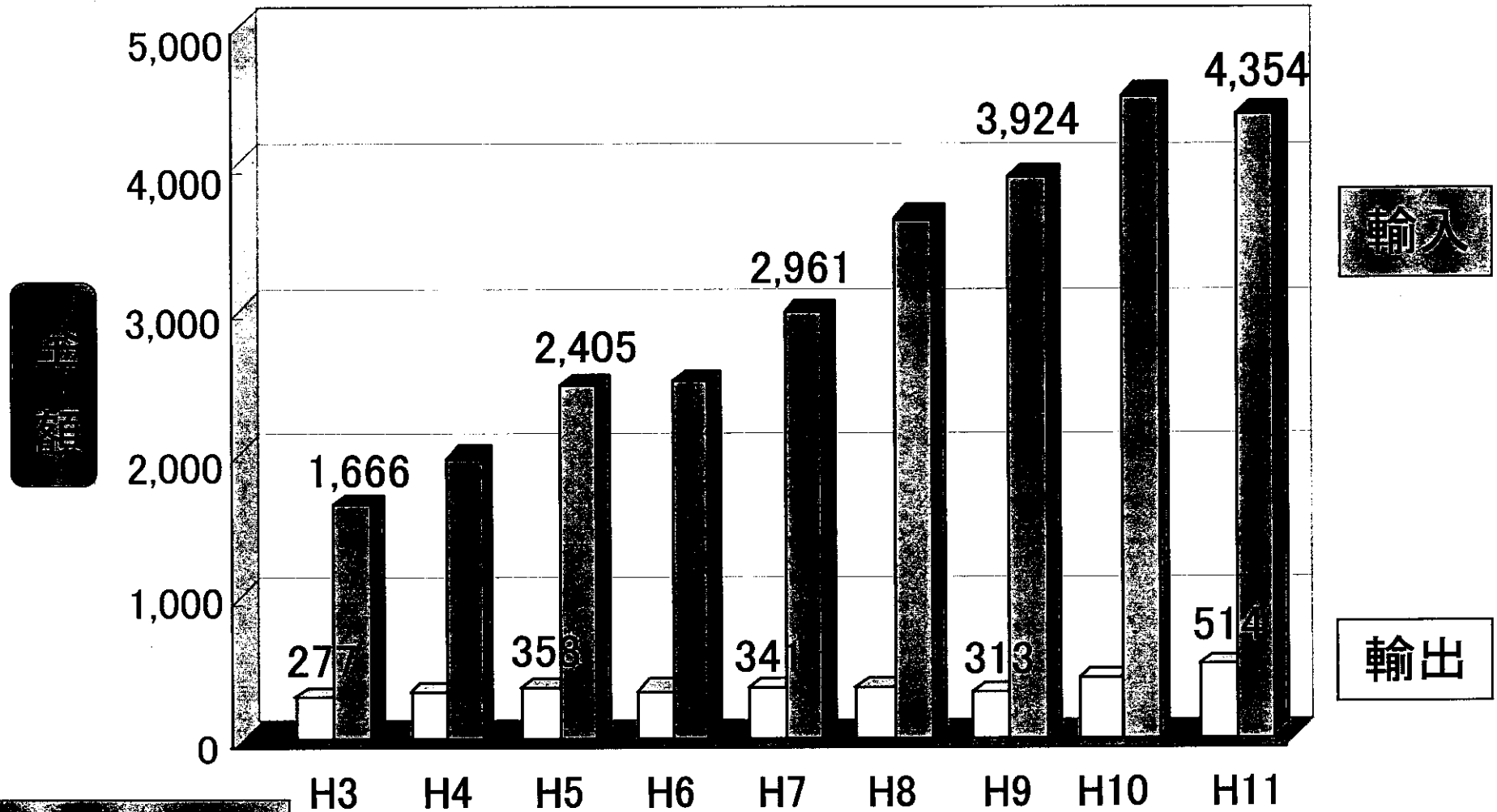


輸出の伸び悩み
輸入の急増

医療用具輸出入額推移

出典: 厚生労働省

(億円/年)



医療材料が
輸入超過の
主要な原因

医療材料輸出入額推移

出典: 厚生労働省

日本の医療機器産業の現況

- (1) 日本では、電気技術・計測技術・光学技術など得意技術を適用することで開発できる分野が発達した。

内視鏡・血液分析装置・画像診断装置

- (2) 生体機能補助・処置用機械など、米国でもベンチャー的企業によって発達した分野は大幅に遅れた。
- (3) 日本は消化器用途は先進、循環器用途は後進など、疾病構造の差の影響あり。
- (4) 企業側にもリスクに対する警戒心があり、また医療機器を重要産業とする財界の認識は薄かったうえに、ベンチャーの土壌が弱体であった。
- (5) 医療技術に対する国家的将来計画が弱体で、上記のような自然の成行きになった。
- (6) 遺伝子医療・再生医療・手術革新・超早期診断など医療技術が大きく変わる時代を迎え、いまが重要な革新の時期である。

医療に対する米国の国家戦略

医療研究への予算増額と医療機器関連組織の強化

- 2002年予算教書（科学技術予算の方針）より
 - ① 「今日の科学技術の発展は、これまでの「医療」の姿を一変させる。医薬品、バイオテクノロジー、医療機器への継続的な投資が、国民を長寿で健康な人生へ導く」
 - ② NIH予算の「5年で倍増」方針を堅持（1998～2003年度）
- 「医療機器」強化策——学問・省庁横断的新組織（NIH内）
 - ① 医療機器コンソーシアム「BECON」設置（97年）
 - ② 医療機器研究所「NIBIB」創設（01年）：03年度予算案146億円

（5年で倍増達成の医療研究開発予算）

（130¥/\$換算）

項目	主要研究機関予算(兆円)			2003伸び率
	1998 実績	2002 予算	2003 提案	1998 対比
NIH National Institute of Health	1.77	3.05	3.55	2.00倍
NSF National Science Foundation	0.45	0.62	0.65	1.47
NASA Natl. Aeronautics & Space A.	1.77	1.94	1.95	1.10

出所) OSTP (Office of Science & Technology Policy)

医療技術産業戦略コンソーシアム

Medical-Engineering Technology Industrial Strategy Consortium

(略称: METIS)

戦略会議

共同議長: 金井日立製作所会長
桜井東京女子医大名誉教授

事務局

(日本医療機器関係
団体協議会)

戦略企画委員会

調整連絡会

学術系委員

産業系委員

- ・関係各省との情報・意見交換
- ・関係各省への提言・働きかけ

分科会

テーマに応じて随時開催

(例) ○広報分科会

・日本医療機器関係団体協議会

(政策企画部会有効性広報分科会)と連携

○研究開発分科会

・重点プロジェクト検討(ナノテク、再生医療、IT)

○技術評価分科会

・(財)医療機器センターと連携

他

医療技術産業戦略コンソーシアム(METIS)の役割

コンソーシアム

